

まちづくりビジョンの活用と周知は

質問 奥州市まちづくりビジョンが策定されたが、その活用と周知は。また「早期に実施を目指す項目」の取り組みは。

市長 奥州市まちづくりビジョンはI・L・Cが実現することを前提にI・L・Cをまちづくりに生かすための指針として策定した。市民始め各団体、企業等がI・L・Cへの理解を深め、奥州市の将来像を共有し、それぞれの立場でできることに取り組み、協力的にまちづくりを推進するため積極的に周知に努めていきたい。具体的にはホームページへの掲載はもとより、出前講座を含めて関係団体への説明会を開催し積極的に活用を図っていきたい。また「早期に実施を目指す項目」の取り組みは、I



さとう 郁夫 議員(市民クラブ)



策定された奥州市まちづくりビジョン

質問 汚染牧草処理の進捗状況は。

市長 江刺区内は昨年の6月に前処理施設を設置し、今年の5月末をもって処理を終了した。処理量は821万トンで予定どおり処理できた。放射線量は全て基準を下回り、問題なく処理された。関係者の皆様のご協力に感謝したい。JA岩手ふるさと管内は処理期間を今年8月から来年7月までの1年間を予定し、現在胆沢区内に前処理施設設置の手續きを進めている。処理量は999万トンを見込んでいます。放射線量調査は江刺区の例を参考に測定し公表をしていく。

汚染牧草処理の進捗状況は

I・C実現を待たずとも手がけるべき取り組みを提示している。一例をあげれば、新工業団地の整備を掲げているが、工業団地の適地について適地調査を実施しているの、まずは庁内で検討を進めていく。

旧土地開発公社の「土地の売却」のあり方



旧土地開発公社が販売していた桜屋敷ニュータウン

質問 旧公社の解散にあたり、市が公社の負債86億6千万円を第三セクター等改革推進債(三セク債)を活用して借用先の金融機関に支払った。現在、市は三セク債へいくら返済したか。

市長 この3年半で約25億2千万円を繰り上げ償還し、現在は、負債額61億4千万円ほどになっている。

質問 旧公社の解散時に、市は旧公社から取得した55億5千万円の土地をケース1からケース7に分けて、活用計画・処分計画に分けている。その土地を市が販売して減債基金に積み立てて三セク債への支払いとしている。しかし簿価より安く販売している状況では、一般会計(税金)からの繰り入れとなり市民負担が増えるばかりである。

市長 三セク債の86億6千万円の償還は、一般財源から支払われるものであり、旧公社の土地の販売金額も減債基金に積み立てをし、そこから三セク債の償還に充てられる。

質問 活用計画ケース1からケース5の17億4千万円の土地は、市が活用することになっているが、ほとんど活用されていない。最終的にそれぞれ、何時までに、どのように処分する計画なのか。

市長 道路計画等になっている土地が多いが、今は資金の余裕もないので、計画の見通しが立っていない。

質問 本年3月「コンプライアンス・マニュアル(法令遵守手引書)」を作成したとの事、どのように運用するか。

市長 「コンプライアンス・マニュアル」を本年3月に作成したので、職員の政策形成能力の向上を図る研修機会等を通じて、法令遵守意識の高い組織風土に努める。



ちば 健児 議員(市民クラブ)